

燃やすごみの45リットル袋のあり方の検討

1 趣 旨

- 燃やすごみの有料指定袋の最も大きい45リットル袋を廃止するなどして、小さいサイズの袋に誘導することにより、ごみの減量が促進される可能性について、前回の第50回審議会（平成25年2月7日）で、市民アンケート（平成23年度実施）の結果を基にご議論いただいた。
- 前回の審議会では、第2項に示すような意見が出され、もう少し踏み込んで市民の行動を分析するなど、引き続き議論が必要との結論に至った。
- こうしたことから、今回の審議会では、
 - 前回の審議会での意見を振り返りつつ、
 - ごみ袋の販売・排出状況、他都市の袋の種類（大きさ）を提示し、
 - ごみ減量促進策としての45リットル袋のあり方について複数案の比較を行うので、
ご意見をいただきたい。
- なお、45リットル袋がなくなると困る理由など、市民の行動を踏み込んで分析する必要性について前回の審議会で見聞をいただいております。その点については、平成26年度に予定している「雑がみ」の分別の全市展開を行い、ごみ量の変化を見た上で、市民アンケートの実施を検討していく。

2 前回の審議会での主な意見

- アンケートによると、45リットル袋を主に使っている世帯の「現在主に使用しているサイズの袋がなくなると困る」と回答した割合が、他のサイズの袋を使用している世帯に比べて突出して高い結果となっていることについて、45リットル袋がなくなると困る理由を調べ、ニーズの中身を確認して対応を考える必要がある。
- 45リットルと30リットルの差が大きいので、間のサイズを新設してはどうか。
- ごみ袋の中で大きな容積が占めているのは、紙ごみ、プラスチック製容器包装、生ごみではないか。これらをターゲットに分別・減量策を進めることで、燃やすごみ袋に入れる容量が減るのではないか。
 - 45リットル袋を使っている人は、45リットル袋が廃止された場合に、小さい袋に小分けにすればよいという意見があるが、45リットル袋の廃止は、小さい袋に小分けで出してもらうことが目的ではなく、発生抑制の取組を頑張ってもらいたいことが目的である。
- その他の手法として、45リットル袋に対して小さいサイズの袋の単価を割安に設定する累進性が考えられる。

3 関係データ等

(1) 有料指定袋の販売状況

- 燃やすごみ袋の大きさごとの販売比率に大きな変化はない。

表 有料指定袋の販売状況

(単位：千枚)

種類	容量	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		順位
		枚数	比率											
燃やすごみ用	45ℓ	21,556	(33%)	16,251	(27%)	15,448	(26%)	15,666	(25%)	15,498	(25%)	15,156	(25%)	③
	30ℓ	24,026	(36%)	17,330	(29%)	16,729	(28%)	16,778	(27%)	16,780	(27%)	16,406	(27%)	①
	20ℓ	6,305	(9%)	13,179	(22%)	14,255	(24%)	15,231	(25%)	15,818	(26%)	16,091	(26%)	②
	10ℓ	11,417	(17%)	10,047	(17%)	10,258	(17%)	10,589	(17%)	10,484	(17%)	10,583	(17%)	④
	5ℓ	3,112	(5%)	3,351	(5%)	3,411	(5%)	3,373	(5%)	3,393	(5%)	3,299	(5%)	⑤
	小計	66,416	(100%)	60,158	(100%)	60,101	(100%)	61,637	(100%)	61,973	(100%)	61,535	(100%)	
資源ごみ用	45ℓ	3,558	(23%)	4,074	(19%)	3,681	(17%)	3,872	(18%)	3,898	(18%)	3,745	(17%)	③
	30ℓ	5,364	(35%)	6,587	(32%)	6,230	(30%)	6,221	(29%)	6,213	(28%)	5,998	(28%)	②
	20ℓ	6,517	(42%)	8,614	(41%)	8,038	(38%)	8,064	(37%)	8,140	(37%)	8,115	(38%)	①
	10ℓ	—	—	1,716	(8%)	3,169	(15%)	3,477	(16%)	3,714	(17%)	3,755	(17%)	④
	小計	15,439	(100%)	20,991	(100%)	21,118	(100%)	21,634	(100%)	21,965	(100%)	21,613	(100%)	
合計		81,855		81,149		81,219		83,271		83,938		83,148		

(2) 有料指定袋へのごみの詰め込み具合(市民アンケート調査結果)

- 燃やすごみ袋について、大きさの違いによる傾向の違いは特に見られず、概ね半数程度が「パンパンに詰める」と回答している。

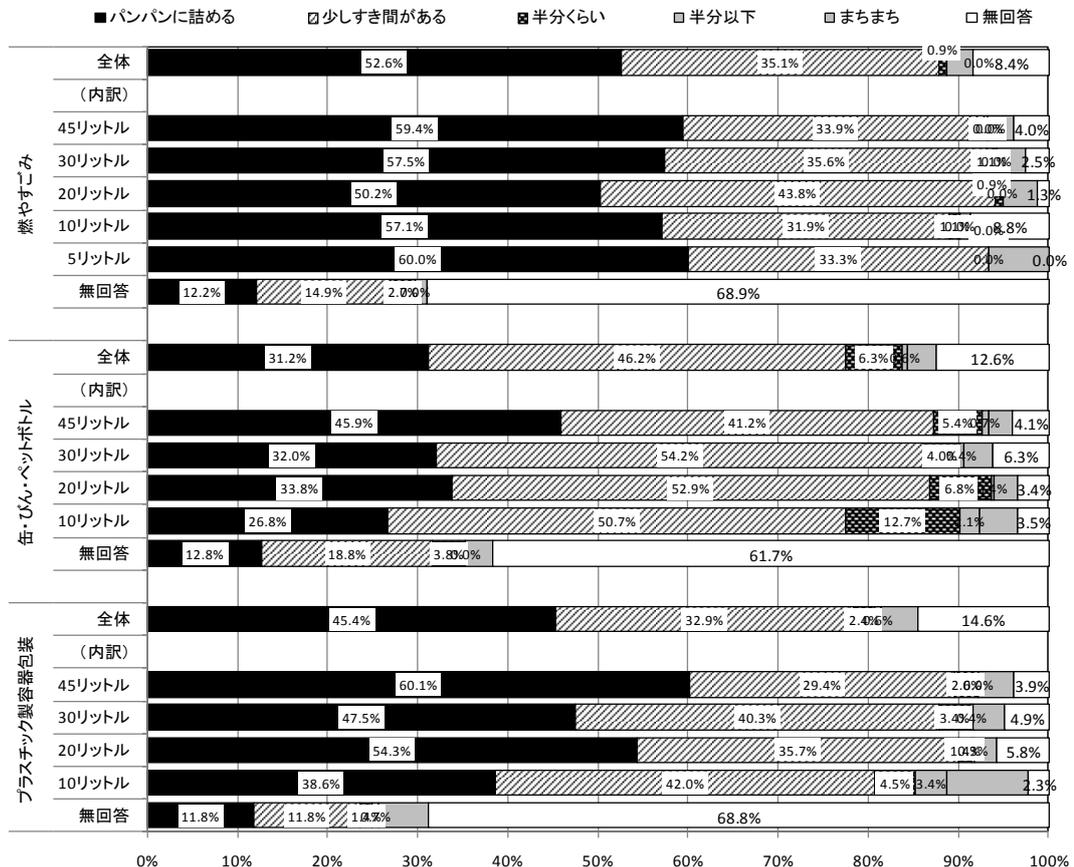


図 ごみ袋の詰め込み具合

(3) 有料指定袋の大きさ別に見たごみの排出状況の調査結果

- 大きさ別の袋の排出数の比率は、販売枚数の比率と近い傾向である（45～20リットルがほぼ同じ割合で、10リットル以下に比べて排出比率が高い。）
- 45リットル袋について、中身のごみの容積が40リットルを超える割合（＝パンパンに近い状態のごみ袋の割合）は15～20%であり、アンケート結果に比べて袋の詰め具合の実態は低い。
- （2）項のアンケート結果において、詰め込み具合はどの大きさもほぼ同じであるにも関わらず、実際の排出状況によると、大きい袋の方が比重が小さい。
⇒ 大きい袋の方が、比重の小さい（かさの大きい）資源物（プラ容器包装、雑がみなど）の混入率が高い可能性
- なお、下の図表には記載していないが、一つの袋の中に紙おむつや古着、剪定枝などが袋の3分の2程度以上まとまって排出されている袋が5%ほどある。これらのごみは、必ずしも45リットル袋で排出されておらず、袋の大きさはバラついており、普段使用している袋のサイズと連動している可能性がある。（24年度：45袋10コ、30袋6コ、20袋7コ、10袋0コ、5袋2コ）。

平成24年度

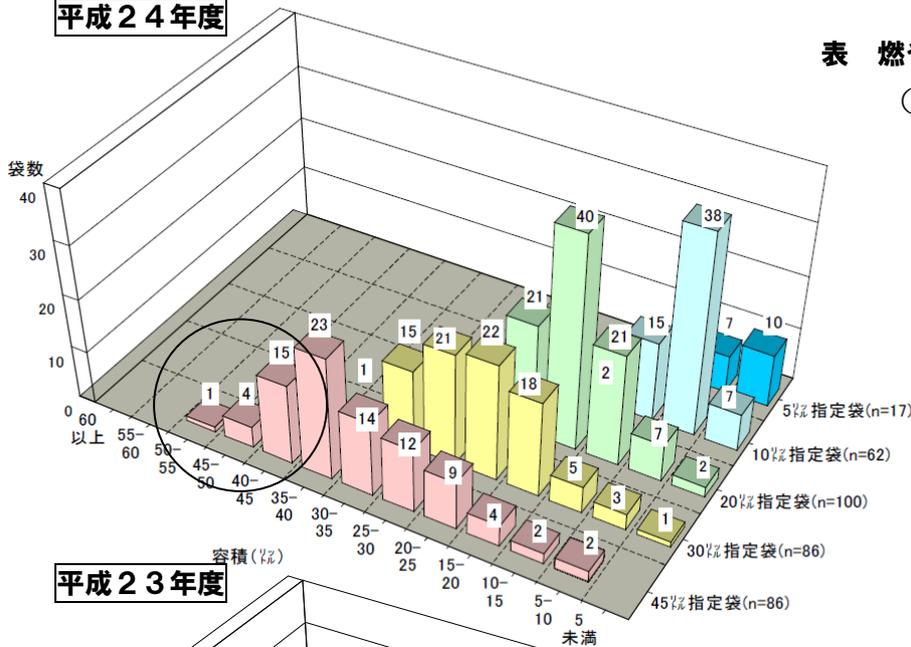
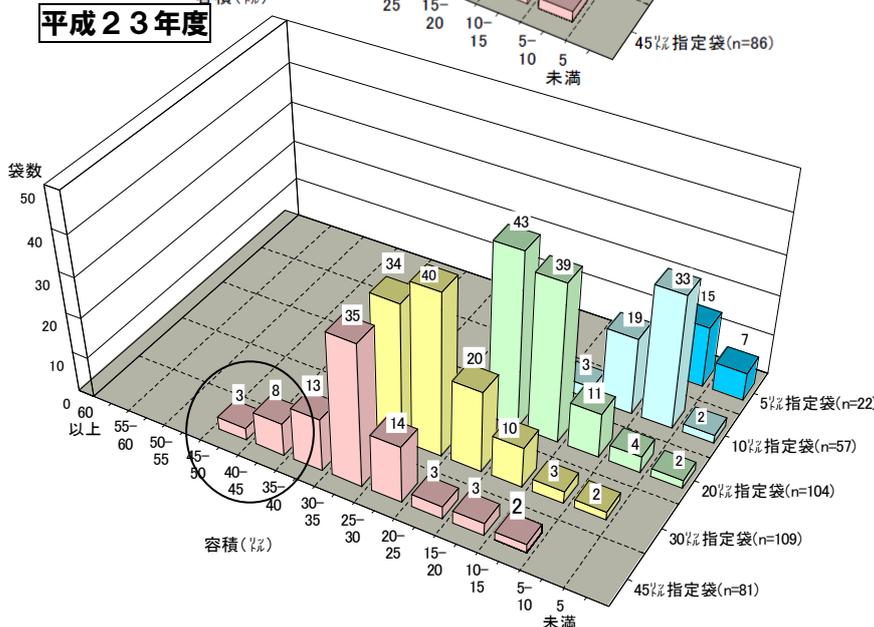


表 燃やすごみの見かけ比重
(単位：kg/リットル)

袋の大きさ	比重
5	0.350
10	0.242
20	0.224
30	0.205
45	0.163

平成23年度



袋の大きさ	比重
5	0.295
10	0.258
20	0.198
30	0.182
45	0.166

図 ごみ袋の排出状況（容積の分布）

(4) 政令指定都市における有料指定袋の種類、容量及び価格

- ・ 京都市を含む8都市が有料指定袋制を導入しており、燃やすごみの最大サイズは、札幌市を除く7都市が45リットルで、札幌市は40リットルである。
- ・ 2番目の大きさは、札幌市以外のすべての都市が30リットル、札幌市は20リットルである。
- ・ 価格の累進性については、岡山市が、45リットル袋だけが1リットル当たり0.1円高く、1.1円に設定している。また、仙台市は、下表では1リットル当たり0.9円で統一されているよう見えるが、45リットル袋だけは0.889円となり、逆に45リットルだけがわずかに安い設定となっている。
- ・ なお、札幌市、岡山市、北九州市の販売実績と京都市の状況を比較したところ、札幌市は20リットル以下の割合が高く、岡山市は京都市とほぼ同じ傾向で、20リットル以上の割合が高いとなっている。
- ・ さらに、40リットルから10リットルまで10リットル刻みに1円/リットルで販売している亀岡市の販売実績も調査したところ、京都市、岡山市よりもさらに大きい袋の割合が高い状況となっている。

表 有料指定袋制を導入している政令市における指定袋の種類、容量等

都市名 (有料指定袋導入時期)	ごみの種類	袋の価格																	
		45L		40L		35L		30L		25L		20L		15L		10L		5L	
札幌市 (H21.7~)	燃やせるごみ			80	2							40	2			20	2	10	2
	燃やせないごみ			80	2							40	2			20	2	10	2
仙台市 (H20.10~)	家庭ごみ	40	0.9					27	0.9			18	0.9			9	0.9		
	プラスチック製容器包装	25	0.6					16	0.5					8	0.5				
新潟市 (H21.2~)	燃やすごみ	45	1					30	1			20	1			10	1	5	1
	燃やさないごみ	45	1					30	1			20	1			10	1	5	1
岡山市 (H21.2~)	可燃ごみ	50	1.1					30	1			20	1			10	1	5	1
	不燃ごみ	50	1.1					30	1			20	1			10	1	5	1
福岡市 (H17.10~)	燃えるごみ	45	1					30	1					15	1				
	燃えないごみ	45	1					30	1					15	1				
	空きびん・ペットボトル	22	0.5					15	0.5										
北九州市 (H10.7~(※))	家庭ごみ	50	1.1					33	1.1			22	1.1			11	1.1		
	かん・びん									12	0.5								
	ペットボトル	20	0.4							12	0.5								
熊本市 (H21.10~)	燃やすごみ	35	0.8					23	0.8					12	0.8			4	0.8
	埋立ごみ	35	0.8					23	0.8					12	0.8				
京都市 (H18.10~)	燃やすごみ	45	1					30	1			20	1			10	1	5	1
	資源ごみ (缶・びん・ペットボトル、 プラスチック製容器包装)	22	0.5					15	0.5			10	0.5			5	0.5		

※ 北九州市については、平成18年7月に手数料値上げを実施

表 他都市の有料指定袋の大きさ別の販売枚数比率（平成24年度実績）

サイズ	札幌市	岡山市	亀岡市	京都市
45	—	27%	—	25%
40	13%	—	40%	—
30	—	31%	38%	27%
20	36%	26%	16%	26%
10	33%	13%	6%	17%
5	18%	3%	—	5%

※ 亀岡市は、埋立ごみは30リットル袋のみ設定し、資源ごみは指定袋ではない。

4 45リットル袋から小さいサイズの袋への誘導策の比較検討

(1) 小さいサイズの袋に誘導する目的

燃やすごみの有料指定袋の最も大きい45リットル袋を廃止するなどして、小さいサイズの袋に誘導することにより、ごみの減量が促進される可能性を検討することを目的とする（小さいサイズの袋に小分けで排出してもらうことが目的ではない。）。

(2) 誘導策の複数案の比較検討

複数案	メリット（○）、デメリット（●）
現状維持 【他都市の方式の大勢】	○● 何も変化がなく、ニーズの面でもごみ減量の観点でも特に市民に影響はない。
45リットル袋を廃止 （最大サイズを30リットルとする） 【他都市の例なし】	○ 45リットル袋が使えなくなることで、ごみ減量・リサイクル行動を促進し、減量効果がもたらされる可能性がある。 ● 45リットル袋が必要な世帯や状況（世帯人数の多い世帯、大掃除等）で不便が生じる。 ● 45リットル袋の高いニーズを踏まえれば、ごみを大きく減らす新たな取組（新たな分別など）と同時に廃止しなければ、利用者の理解が得られない可能性が高い。 ● 小さいサイズの袋で小分けで出すことになるだけとなり、減量効果がもたらされない可能性がある。
45リットル袋を廃止し、40リットル袋（40円）を新設 【札幌市・亀岡市タイプ】	○ 最大サイズの袋の価格が5円値下がりすることで、小分け排出への移行ではなく、40リットルにスライドする可能性が高い。そのため、最大サイズの袋の大きさが約1割小さくなることによる減量効果が得られる可能性がある。 ● さらにパンパンに詰め込むだけで、減量効果がもたらされない可能性がある。 ● 移行期間中に、指定袋の販売店や市民に混乱を与えないよう配慮が必要である（移行するための手間とコストが必要）。
袋のサイズは現状維持し、45リットル袋だけを割高に設定（または、30リットル以下の袋を値下げ） 【岡山市タイプ】	○ 30リットル以下の袋価格の割安感から、45リットル袋使用世帯が30リットル袋へ移行するために、ごみ減量・リサイクル意識が高まり、減量効果がもたらされる可能性がある。 ● 45リットル袋使用世帯が、割安な小さいサイズの袋に小分けで排出するだけとなり、ごみ減量効果がもたらされない可能性がある。 ● 30リットル以下の袋の利用者にとって値下げとなるため、減量意識の低下を招く可能性がある。 ● 30リットル以下で、資源ごみとの価格差が小さくなり、資源ごみの分別へのインセンティブが働きにくくなる。 ● 移行期間中に、指定袋の販売店や市民に混乱を与えないよう配慮が必要である（30リットル以下の袋の買い控えの発生防止（在庫発生防止）や移行するための手間とコストが必要）。